

- 1 会議名 総務・産業建設常任委員会協議会
- 2 日時 令和4年9月7日（水）
午前11時5分から午前11時46分まで
- 3 場所 第2・第3委員会室
- 4 出席委員 （委員長）井上真砂美 （副委員長）大野慎治
（委員）梅村均、鬼頭博和、水野忠三、黒川武、梶谷規子
- 5 事務局出席 議会事務局長 丹羽至、同主任 丹羽亮二
- 6 委員長挨拶
- 7 協議事項

（1）意見交換会のテーマについて

井上委員長：意見交換会のテーマとして、資料を2枚用意した。先ほどの委員会で、インボイス制度について商工会に意見を求めることとなったため、テーマを増やさなければならない。

梅村委員：この件は、項目を上げてしっかり聞かなければならない。時間切れのないように最初にしたい。

梶谷委員：商工会としてインボイス制度について相談も受けており、学習もしていると聞いている。今の状況をお聞きしたい。

井上委員長：インボイス制度の実施に向けてという項目でよろしいか。

大野副委員長：それでいいと思う。

井上委員長：細かい内容は項目に含めるとして、1番目の項目とする。2番目以降の項目が一つずつずれる。

水野委員：4番目の項目になった燃料費高騰の影響であるが、物価高も入れてほしい。燃料だけでなく、いろいろな品物が値上がりしていることについても聞いてはどうか。

井上委員長：燃料費など物価の高騰の影響はどのようなか、とする。

大野副委員長：この項目は上位にしたほうがいい。支援策が必要との意見があるかもしれない。

井上委員長：では、この項目は3番目として、次にビジネスサポートセンターの運営状況、5番に桜通線のにぎわい、6番はその他とする。

梅村委員：所要時間は何時間であったか。

井上委員長：1時間半の計画。

梅村委員：内容は商工会の方と打合わせしているか。

井上委員長：商工会の会長はお任せするとのことであった。

大野副委員：今日テーマが決まれば、この内容でとお願いすればいい。

梅村委員：いつものフリートークのつもりで臨まれるといけないので、今回はテーマに沿って進めるとご理解いただくのと、時間が不足して途中までしかできないかもしれないことを伝える必要がある。

井上委員長：このようなテーマで進めたいということと時間の制約があり、後半部分は省略させていただく可能性があるとお伝えしてお願いする。

大野副委員長：ビジネスサポートセンターの運営状況の項目で、効果的だったかというのは少し失礼である。効果的だった事例について紹介していただく形のほうがいい。

榊谷委員：3番の物価高と2番のコロナ禍の項目を一緒にしてはどうか。

水野委員：項目はこのままで、進行上併せて聞けばいいのでは。

井上委員長：2番と3番をまとめて進めていく。

大野副委員長：プレミアム商品券の効果とあるが、昨年度行った PayPay キャンペーンの効果についてもどのように評価されているのか聞いたほうがいい。

黒川委員：5番目の桜通線のにぎわいの項目で、送り仮名の「り」の文字は不要。

井上委員長：この案を商工会に伝え、議会基本条例推進協議会で皆さんに提案していきたい。続いて、農業委員会との意見交換会であるが、日にちを決めていない。フリートークではなくテーマを決めてほしいと言われた。案としてテーマを出してみたので意見を聞きたい。

榊谷委員：営農型の太陽光パネル設置について項目を入れてほしい。

黒川委員：営農型がつく意味は何か。

榊谷委員：農地を転用して太陽光パネルを設置しているところが多い。市当局は農地を保全したいと言っており、農地は保全しつつ営農型の太陽光パネルを設置することを2050年の大きな項目にしている。

黒川委員：農地の利活用の話である。営農型を頭につけることで、太陽光発電で何か営農するのかなと思ってしまうが、そうではなく、今ある農地が耕作放棄地にならないように、太陽光パネルの利活用をしてはどうかという意味か。

榊谷委員：最初は耕作放棄地とか、農地を減らさずにということであつたが、現在、耕作されている農地も営農型太陽光パネル設置が有効ではないかとの意味も含めたい。

井上委員長：市内に2か所設置してあるとのことだが、どこの地区か。

榊谷委員：給食センターの南と、一期一会荘の東。

黒川委員：石仏にもある。

井上委員長：パネルの下は何か作物を作っているのか。

榊谷委員：酒米を作っていて、パネルを少し高めに設置している。

水野委員：議員と農業委員の関心領域が一致するかということがある。農業委員会の意向や関心についてなにか聞いていないか。

井上委員長：あるとすれば、2番目の項目。

大野副委員長：農業委員会の皆さんは、農地の保全と企業立地の推進はどのように考えているのか。そのようなことを聞いてみてはどうか。

水野委員：関連で、生産緑地とか農地転用とか、農業委員会の実際の権限に関わる場所もまとめて聞いてはどうか。

井上委員長：農地保全や企業立地まで入ってくると難しい。農業委員会として、本音の部分と農業振興の部分と。私たちもどのように意見をまとめて農業委員の皆さんに話したらいいのか。

梅村委員：今までに出てきた議論だと、去年やっていたブランド野菜の取組について、非常に少ない予算でやられているが、このままでいいのかを実際栽培されている農家の方の意見を調べてみるという目的があった。伝統野菜の普及の可能性について意見が出ていたので、農家の方がどう思うかを意見交換できればと考える。ほかに、案に体験塾や市民農園などの項目があるが、今どういう課題があり、なにを聞きたいかが分からない。テーマを絞って意見交換し、後はフリートークでもいいのでは。

大野副委員長：農業委員会の会長からテーマをある程度上げてほしいと言われている。

梅村委員：テーマは多く上げる必要はない。逆に農業委員からなぜこのテーマを上げたのか聞かれたらどうするか。

井上委員長：貸出市民農園についてどう思っているか、もっと増やしていきたいのか、稲づくり体験活動についても農業委員会がかなり手伝っているが、農地保全の活動として普及していきたいのか、意見を聞きたかった。企業立地までも項目に上げるのはどうかと考える。

水野委員：建前では農業推進や振興であろうが、本音の部分で岩倉市の農業をどうしていきたいかを聞いたほうがいい。

榊谷委員：やはり保全の方向で前向きな意見を求めたい。その他でいいので、若手農家の育成の推進をどう考えるかとか。最初は黒川委員のブランド野菜の提案があって、実際の農業者からそれは難しいと言われ、農業委員会との意見交換会という話になった。新しいブランド野菜の栽培について、農業委員会の率直な意見を聞いてもいいのでは。

井上委員長：1番の「農業プロとして」の言葉は、ほかに適切な言葉はあるか。

大野副委員長：なくてもいい。

黒川委員：夢のある話はなかなか出にくい。農業を担っている方は 60 代後半を超えて 70 代になり、子どもたちが農業を継ぐ意思がないことも分かっている、今ある先祖代々の農地をどうするか思い悩んでいる。その中で、若い人たちに魅力のある、稼げる農業にしていくことはできないか、そのためにどのような支援を求めるかを聞きたい。例えば、農業者と商業者がコラボして商品開発につなげるなど、夢のような話と言われても、絶えずやっていくことが議員の使命でもあると考える。

榎谷委員：そういった意味で、2 世がしっかり育っている北島の農業委員の方や、福祉と一緒にやっている鈴井の方、その方達の話も聞きたい。夢を語っていただける話し合いにしたい。

大野副委員長：関戸議員が一般質問していた、肥料や燃料費高騰による影響、支援策について項目に上げなければいけない。

井上委員長：それも項目に上げる。1 番の項目に適切な言葉はなにかないか。

水野委員：スマート農業とか。高齢化したときの農作業をカバーする技術として。

梅村委員：未来の農業と現状の課題について。これで全部使える。

井上委員長：そのようにまとめて、農業委員の方に提示し、日程調整する。

（２）行政視察について

井上委員長：安城市や、ふるさと納税関係の碧南市など、事務局で調べてもらったが、良い返事がなかった。そこで、とよたエコフルタウンを提案する。SDG s 達成に向けた取組を豊田市が行っていて、自由見学もでき、先進技術を体感することができる。

大野副委員：自由見学では視察にならないのでは。

井上委員長：ガイドツアーによる見学があり、将来像を見るということになる。おおまかな日程は決まっていたが、受入れ先がなかなか決まらない。実施の方向で進めてもいいか。

大野副委員長：日にちを決めてほしい。

井上委員長：10 月 4 日火曜日の午後 1 時 30 分で、実施の方向で進める。

大野副委員長：移動手段は。

井上委員長：公共交通機関を利用することでいいか。会場で昼食の予定も含め、計画を立てる。SDG s 未来都市に関することの行政視察ということで、継続審査の申入れをする。

（３）その他

梅村委員：請願の件、商工会とは意見交換会をするとして、閉会中に委員会を開催するならば日にちを決めたほうがいい。

井上委員長：委員会は９月 21 日の全員協議会の後に開催する。

梅村委員：商工会の意見交換会の後でないと審査はできない。

大野副委員長：10 月 21 日の議会基本条例推進協議会終了後に委員会を開いて、結論を先に出しておくというのはいかがでしょうか。

井上委員長：10 月 21 日の全員協議会の後、委員会を開いて、インボイス制度に関する請願書の審査をする。

梶谷委員：12 月議会まで待たないでやるということか。

梅村委員：待つ方法もあるが。

大野副委員長：先に結論を出した事例もある。先に結論を出して 12 月に報告だけでもいいのでは。

井上委員長：10 月 21 日の全員協議会の後、委員会を開催する。

８ その他

特になし。